特集 日本は111位!?

～ジェンダーギャップ指数でみる世界と日本～

みなさん、ジェンダーギャップ指数をご存じですか？

世界経済フォーラムが毎年男女間の格差を指数化しているもので、男女平等ランキングとも呼ばれています。2016年10月に発表された最新ランキングでは北欧の国々が上位を占め、日本は144か国中111位と過去最低の順位でした。

日々、女性の活躍が取り上げられ、日本は世界の中で上位になったと思っていませんでしたか？

今回は、ジェンダーギャップ指数から、世界と日本について一緒に考えていきましょう。

「ジェンダーギャップ指数」とは、世界経済フォーラムが「世界ジェンダーギャップ報告書」において、毎年発表しているものです。４つの分野、①経済活動の参加と機会（給与、雇用数、管理職や専門職での雇用における男女差）、②教育（初等教育や高等・専門教育への就学における男女格差）、③健康と寿命（出生時の性別比、平均寿命の男女差）、④政治への関与（議会や閣僚などの意思決定機関への参画、過去50年間の国家元首の在任年数における男女差）から男女格差を指数化しています。左の表のとおり、上位の国は４位まで北欧諸国が占めており、アジアでトップ10にランクインしたのは、７位のフィリピンのみです。

日本は２０１５年の101位（145か国中）から10位順位を下げ、２０１６年は111位となりました。今回大きく順位が下がってしまった理由として影響を及ぼしたのは、「男女の所得格差」です。厚生労働省によると、働く女性の約56％が非正規雇用です。男女間賃金格差は、男性のフルタイム労働者の賃金を100とすると、女性は72.2と大きく差があります（平成26年「賃金構造基本統計調査」）。また、管理職の女性比率が低いこと、政治分野でも国会議員を始めとする女性議員の割合が低く、過去50年で女性の首相が出ていないことも、順位を下げている要因のひとつです。

一方、評価が高かったのは、教育の分野における「初等教育」「中等教育」と健康と寿命の分野における「平均寿命」で、それぞれ1位となっています。

日本も男女ともに家庭と仕事の両立に向けて、多様性を認め就労環境を整える努力をしています。しかし、なかなか他の国のスピードに追いつけておらず、順位が下がりました。文化の違いはありますが、他の国の良い部分は吸収し、より良い男女共同参画社会の実現を目指しましょう。



【世界経済フォーラム（World Economic Forum）】

スイスのジュネーブに本部を置く、世界の大手企業や主要団体などが加盟する非営利財団。世界を代表する企業家や各国の政治家、学者などが世界情勢の改善に取り組む、独立した国際機関。

ジェンダーギャップ指数国別順位
（対象国数 144 か国。昨年は 145 か国）

順位	国名	昨年順次
1	アイスランド	1
2	フィンランド	3
3	ノルウェー	2
4	スウェーデン	4
5	ルワンダ	6
6	アイルランド	5
7	フィリピン	7
8	スロベニア	9
9	ニュージーランド	10
10	ニカラグア	12
⋮		
13	ドイツ	11
⋮		
45	アメリカ合衆国	28
⋮		
99	中国	91
⋮		
111	日本	101
⋮		
116	韓国	115

※世界経済フォーラム「The Global Gender Gap Report」

インタビュー

世界7位のフィリピン

フィリピン出身　持田ロベリタさん（銀座）



ジェンダーギャップ指数で、フィリピンはアジア最高の7位。管理職の女性比率が47％と聞くと、その活躍に驚かされます。しかしフィリピンでは、国で認めた産休期間が60日から100日に昨年やっと延長されたばかり。女性を取り巻く制度は特に手厚いわけではありません。それなのに、女性が生き生きしているのはなぜなのか。日本人男性との結婚を機に日本で暮らす、フィリピン出身の持田ロベリタさんに話を伺いました。

◆フィリピンがアジアで一番男女格差がないと聞いて、どう思いましたか。

納得です。フィリピンの女性は強くて、とってもポジティブ。男性は職種によって40歳で定年を迎える人もいるけれど、女性が活躍できる仕事はたくさんあります。接客業は女性の比率が圧倒的に高い。ネイルもヘアカットも特に資格がないので、上手な人は周囲の人にやってあげてお金をもらう。フィリピンで仕事をしてお金を稼ぐのは、男女関係なく「家族のため」という考え方が一般的なので、家族のために稼ぐタフさが、女性の地位向上につながっているかもしれません。

◆日本と母国の違いを、どこで感じますか？

フィリピンでは親戚付き合いも近所付き合いも濃厚なので、みんなで助け合って生活しています。子どもの面倒も、祖父母を含め、みんなでみる考えが一般的です。その中には、いとこまで含まれています。23歳で日本に来て、周囲の人との関係が希薄で寂しい思いもしました。

フィリピンでも家のことはやはり女性が中心ですが、家の仕事も子どものことも、『夫婦の仕事』という意識が強いです。男性は仕事が終わるとまっすぐ家に帰ってきて、すぐに家事や子育てを手伝います。そこは日本の男性と違うかもしれません。

◆日本の女性、男性に向けて、メッセージを。

日本の女性は忙しすぎですよ。そんなに働かなければいけませんか。それに家事、育児、仕事も全部きちんとこなすのが普通だと、思いこんでいませんか。男性は家の中はみんな奥さんの仕事だと思っていて、女性もそういうものだと受け止めてしまっていませんか。男性は奥さんの頑張りをもっと見てください。家の仕事も子どものことも、『夫婦の仕事』なんですよ。

日本の男女平等度合を分野別にみると

100点満点に換算、順位は144か国中（前回は145か国中）

経済	給与、雇用数、管理職や専門職での雇用における男女格差	今回	118位
	56.9点	前回	106位
	61.1点		
教育	初等教育や高等・専門教育への就学における男女格差		76位
	99.0点		84位
	98.8点		
健康	出生時の性別比、平均寿命の男女差		40位
	97.9点		42位
	97.9点		
政治	議会や閣僚などの意思決定機関への参加、国家元首の在任年数などの男女差		103位
	10.3点		104位
	10.3点		
総合			111位
	66.0点		101位
	67.0点		

今回の特集は、ジェンダーギャップ指数から世界と日本を見てきました。また、アジアの中で上位となっているフィリピンの実態を探るべく、インタビューをさせていただきました。みなさんは、どのようなご感想を持たれたでしょうか。

インタビューでお話しいただいた、フィリピンの女性のポジティブな姿はとても魅力的でした。

日本も、女性の活躍を掲げ取り組んでいますが、なかなか実態は進まず、まだまだ課題があります。もちろん、ジェンダーギャップ指数は男女共同参画を計るひとつの目安ですが、一人一人がこの結果から意識改革を行うことで、女性も男性も生き生きと活躍できる未来が待っているのではないでしょうか。